

授業科目名	身体コミュニケーション実習	担当教員	木田 真理子 児玉 北斗 深澤 南土実
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第1・3クォーター		
講義内容	この授業の目的は、会話やダンスなどを通じて身体的なコミュニケーションや表現の可能性を知ることにある。内容は主に、会話や踊りが起こりやすい空間や人との間合いなどを探りながら、身体感覚に基づくコミュニケーション(交感や共感)のあり方を学ぶものとなる。		
到達目標	1. メンバー間で、身体感覚に基づくコミュニケーションを／も取ることができるようになる。 2. 身体表現の魅力を、観客に届かせることができるようになる。 3. 自身の体験や他者の表現について感じたこと、思ったことを人に言葉で伝えることができる		
授業計画	次のような内容を用意している。 01：イントロダクション：歩く、話す、聞く【児玉】 02：他者と自己の境界【児玉】 03：ソマティックス(身体の内的な感覚と動きとの関係)【児玉】 04：ライブ・コンポジション A(環境から誘発される動きの構成)【児玉】 05：ライブ・コンポジション B(動きやポーズをゲーム的に構成する)【児玉】 06：ライブ・コンポジション C(構成のシステムを理解し、実践する)【児玉】 07：ケアとセラピー、心身の意識と無意識【児玉】 08：1~8回のまとめ【児玉】 09：身体表現における視覚【木田】 10：身体表現における聴覚【木田】 11：身体表現における触覚【木田】 12：身体的なコミュニケーションや表現を深める(空間と身体)【木田】 13：身体的なコミュニケーションや表現を深める(モノと身体)【木田】 14：身体的なコミュニケーションや表現を深める(想像/イメージ)【木田】 15：身体の濃やかなコミュニケーションや表現に向けて【木田】 16：9~16のまとめ【木田】 17：からだの声をきく(身体との対話：脱力する、重心・重力を感じる、呼吸と身体感覚)【深澤】 18：空間と遊ぶ(床・空間・他者とのコミュニケーション)【深澤】 19：自分を表現する、他者を意識する【深澤】 20：身体で思考する(踊っている時の感覚の言語化：言葉と身体)【深澤】 21：言葉×ダンス(言葉から振付を考える)【深澤】		

	<p>22：振付を分解して構成する、他者と踊る【深澤】</p> <p>23：音楽とダンスの隙間を探る【深澤】</p> <p>24：17～23のまとめ【深澤】</p>
事前・事後学習	<p>児玉：授業内容を踏まえ、生活の中で「身体的なコミュニケーション」を感じる時のことと関連させて記述する（事前・事後学習として週4時間程度）。</p> <p>木田：自分の嗜好や振る舞いが何から影響を受けているかを反省し、記述してみる（事前・事後学習として週4時間程度）。</p> <p>深澤：授業内容をもとに、日頃から自身の身体感覚に注意深くってみる。自分の身体の内側と外側との関係を探ったり、他者の身体動作に興味を持ち自身が何から気づきを得ているか書き留める（事前・事後学習として週4時間程度）。</p>
テキスト	特に指定しない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・富田大介編『身体感覚の旅』（大阪大学出版会、2017年） ・池田晶子『14歳からの哲学-考えるための教科書-』（トランスビュー、2003年） ・伊藤亜紗『記憶する体』（春秋社、2019年） ・三村尚彦、門林岳史編『22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ 天命反転する経験と身体』（フィルムアート社、2019年） ・東畑開人『居るのはつらいよ ケアとセラピーについての覚書』（医学書院、2019年） ・ウィリアム・フォーサイス『インプロヴィゼーション・テクノロジーズ 分析的ダンスの視線のための道具』CD-ROM（慶応大学出版会、2000年） ・村上靖彦『交わらないリズム 出会いとすれ違いの現象学』（青土社、2021年） <p>ほか、適宜紹介する</p>
成績評価の基準	<p>平常点 40%：毎回の授業中の様子をもとに到達目標の1と2から判定する。</p> <p>課題 60%：前半・中盤・後半の授業内容に関する計3回のレポートを課し、到達目標の3から判定する。</p>
履修上の注意 履修要件	<p>この授業では複数人でワークすることが多くなるので、遅刻には気を付けること。</p> <p>他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は教員とよく相談の上で履修してください。</p>
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	授業内容および教員の担当回については最初の授業で説明する。